

研究結果報告書

日本は本当に「保守化」および「右傾化」しつつあるのか？
－現代日本社会におけるイデオロギー状況の分析－

所属： 西南交通大学 政治学院
役職： 教授
氏名： 田 雪梅

市民団体のイデオロギーが国家上層政治の成り行きを間接に反映する同時に、政治意識を支える重要な土壌になっている。本研究は冷戦後日本の重要な市民団体（中道右派から右派に団体5つ、中道左派から左派に団体5つ）を対象にし、安保と改憲（特に憲法9条）、人権と民主、日本の歴史、文化及び天皇制、侵略戦争、共産主義、環境保護及び社会福祉など6つ問題に対する態度を分析様相にして、以下の判断に辿り着いた。

1、10つ団体の発展状況と区別について。

左派団体は憲法9条を守り、改憲反対、人権保護、核兵器廃絶などに引き続き取り組んでいる。憲法9条の会など新組織が活躍し、壮大な地元組織を作ったが、全体として高齢化と経費不足などで勢力が弱まってきた状態である。各団体の関心重点がそれぞれ違うので、活動の協調性と整体性が不足で社会影響力の拡大が制限されている。右派団体は90年代から急発展に入って、組織システムが交錯し、アメリカ、韓国、共産主義に対する意見が完全に一致しないと言えないが、左派と比べてイデオロギーの一体性が強く、応援する議員が多く、出版物の影響力、学生・庶民への浸透力、政府への影響力が強くなってきた。改憲と軍備の強調、天皇制への熱中、歴史と伝統文化価値へ帰るのが基本的な目的である。右派と左派の価値観の対立が近年に強くなっている。

2、冷戦後社会イデオロギーの特徴について。

第一、断片化。左派団体の関心点の差別と活動の整体性によって、6つの分析様相に対して国民の観点が入り乱れて、統一性が弱く、均質性がない。左右の観点の相違と対立のみならず、中立と曖昧な多様化選択もある。

第二、序列化。国民イデオロギー状態を判断する序列は強序列「憲法9条に対する態度」―安保改憲と人権民主問題、次強序列「日本歴史と文化に対する態度」―侵略戦争と天皇制、弱序列「環境、社会福祉、共産主義に対する態度」からなる。

第三、政策化。左派と右派の価値観が単純な理念の闘争ではなく、具体的政策によって意見を表現する傾向になっている。国民は政策により政治団体への支持と拒否態度を判断し、各団体も理念の政策化に全力を尽くしている。

第四、復古化。日本会議を始めとして右派団体は部分政治家と議員の支持及びメディアの配合を得て対外排斥対内保守ひいては極端なナショナリズムを煽動し（その中、部分理念がもう政策化になった）、日本社会が次第に復古化になっていく。これは民衆の近代侵略戦争へ認識と清算不足、さらには政治の面で周辺諸国との関係が緊張となる原因の一つである。復古の国家主義の道に歩くのは日本の未来にとって一番の危険な信号である。

総じて、現在の日本社会では、左右の力が均衡を保っていないにもかかわらず、左派団体はまだ社会活動と意見発表の空間をもって、社会を引導し、政府を拘束する重要な牽制力になっている。冷戦後日本社会は保守的になっていくが、全体が右翼化になる十分な証拠がまだないといえよう。新民族主義は興ったが、その主張には新しいものがなく、情緒化に留まっている。これは戦後日本がずっと陥っていた「愛国と民主」という苦境の新しい続きである。

3、原因について。

冷戦後国際環境の変化、日本の経済の衰退、政局の不安定、社会共同体の解体、中国の復興など原因によって日本社会の自信と誇りがくじけて、国民心理と国家アイデンティティーの危機感を引き起こした。社会結構の面で、冷戦後日本市民社会の発展不足も原因の一つである。

4、復古な国家主義の発展を避けるために中国学者の提案。

第一、民主政治の基礎を一層構築する必要がある。特に日本国民の民主主義教育を増加し、憲法の価値観を国民の落ち着くところに占めさせる。大手企業制を始めとして経営体制の大きく改革を推進するのは当然である。

第二、市民社会の建設を一層強める必要がある。多様化の中間団体の活動を強めて、活かして、左派団体と中間団体の団結と協力を実現し、社会の不安と孤立感を変えることは重要である。

第三、政党体制の牽制力を強める必要がある。野党特に左派野党は未来日本政治方向を決めるのに自分の役割を十分に認識しなければならない。各自分散活動の局面を変え、左道、中左の魅力あるイデオロギーを再構築し、政党の関連市民団体及び市民へ連帯感と吸着力を増加し、保守政党と強く対抗できる野党体制を構築し、確かに国民の多様化呼び声を順応でき、国民意見をうまく取り込める政策決定体制を作れる。そうすれば、穏健なナショナリズムを再建できると思う。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

(1)

2014年7月6日、清華大学「政治学と国際関係学術共同体」会議には「冷戦後日本社会変遷と中日関係」分フォーラムの責任者として、「冷戦後日本における市民団体の発展について：中左と左道団体を中心に」の報告をしました。

場所：北京国際会議センター3階

http://www.tsinghua.edu.cn/publish/ir/3616/2014/20140609155038664146658/20140609155038664146658_.html

(2)

2014年12月11日、西南交通大学には全校学生へ向け「創新講座」では「現代日本社会イデオロギ分析：重要な市民団体の分析視野から」の講座を行いました。場所：2号教学棟2537号。

<http://zzxy.swjtu.edu.cn/webside/Page.aspx?aid=3069>

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

題名：「冷戦後日本社会のイデオロギ分析：重要な市民団体の分析視野から」；

著者名：田 雪梅

出版社：西南交通大学 (あるいは) 中国社会科学出版社 (両方と相談と比較中)

発行時期：2016年1-2月 (予定)